

横浜市繁殖センターに「ニホンライチョウ」が来園しました ニホンライチョウの繁殖に取り組みます

横浜市繁殖センターでは、環境省および（公社）日本動物園水族館協会と協力して、平成25年度からニホンライチョウの亜種であるスバルバルライチョウを飼育し、国内の動物園や大学の研究者と共にライチョウの生息域外保全に関する研究を続けてきました。更に、平成31年3月にはニホンライチョウ2羽を導入し、飼育技術の向上に取り組んできました。

今回、環境省の「ライチョウ保護増殖事業計画」の一環として、那須どうぶつ王国よりニホンライチョウ雄1羽を新たに導入し、横浜市繁殖センターでニホンライチョウの繁殖に取り組みます。

ニホンライチョウは、国内の北アルプスや南アルプスの高山に主に生息し、近年生息数が減少し絶滅が心配されています。



©那須どうぶつ王国提供

来園日	来園元の動物園	性別	生年月日
2月24日(水)	那須どうぶつ王国	オス	令和元年7月2日生まれ

※現在、繁殖センターでは鳥インフルエンザ感染対策を実施しているため、繁殖センター現地での取材はご遠慮ください。記事掲載用の写真提供をいたしますので、ご連絡ください。

お問合せ先	
環境創造局 公園緑地部 動物園課長 綱河 功	Tel 045-671-2607

参考資料

ニホンライチョウについて

学名	<i>Lagopus mutus japonicas</i> (ライチョウの日本産亜種)
分類	キジ目キジ科ライチョウ属
分布	本州中部の高山帯。現在、繁殖が確認されている山岳は、火打山と焼山、北アルプス、乗鞍岳、御嶽山、南アルプス。
生態	標高 2,200m から 2,400m 以上の高山帯で繁殖し、冬季に積雪の多い山岳では森林限界やそれ以下の亜高山帯まで下りて生活する。主な食物は高山植物の芽、種子などの植物質。春から夏には昆虫類なども食べる。メスは 6 月にハイマツなどの根元など地上に窪みを作って巣とし、6 卵ほど産卵する。
希少性	環境省レッドデータブック 絶滅危惧 IB 類 (EN) 国指定特別天然記念物
飼育状況	富山市ファミリーパーク、恩賜上野動物園、大町山岳博物館、那須どうぶつ王国、いしかわ動物園、長野市茶臼山動物園、横浜市繁殖センターの 7 園館において 55 羽 (オス 30 羽、メス 25 羽) を飼育 (令和 3 年 1 月 31 日現在)

横浜市繁殖センターにおけるライチョウの飼育経緯

ニホンライチョウは寒冷な高地に生息するため、標高の低い地域でニホンライチョウを飼育するためには、細菌等の感染対策を取り入れた飼育法の知見を集積する必要があります。

横浜市繁殖センターでは、平成 25 年度よりニホンライチョウの亜種であるスバルバルライチョウを導入し、国内の研究者と協力してライチョウの飼育技術を研究してきました。また平成 31 年には、ニホンライチョウ 2 羽を導入し、約 2 年にわたり平易な感染対策による飼育に取り組んできました。更に令和 3 年度以降は、平易な感染対策下での繁殖に取り組み、ニホンライチョウの飼育技術の発展に寄与します。

横浜市繁殖センターについて

希少動物の保全及び繁殖を通して生物多様性の保全に貢献しています。これまで、カンムリシロムクの野生復帰やカゲーやミゾゴイ等の飼育下繁殖に成功してきました。

また、国内の動物園としては初めての研究を目的とした実験設備を備え、希少野生動物の雌雄判別などに関する遺伝子解析や繁殖生理解明のための性ホルモン動態の解析など、「種の保存」に関わる研究を行っています。さらに、横浜市立動物園の動物からの精子、卵子、組織の収集・凍結保存、人工授精等を試み、遺伝資源の保存にも取り組んでいます。

(飼育動物) 14 種 535 点 令和 3 年 1 月末現在

マレーバク、カンムリシロムク、ミゾゴイ、カゲー、ツチガエル他



マレーバク



カンムリシロムク



カゲー